

光経済研究所株式会社

東京都中央区日本橋人形町 1-18-9 TEL 03 (3669) 2331(代)

証券投資顧問業登録関東財務局長第 557 号 日本証券投資顧問業協会会員 011-00557 号

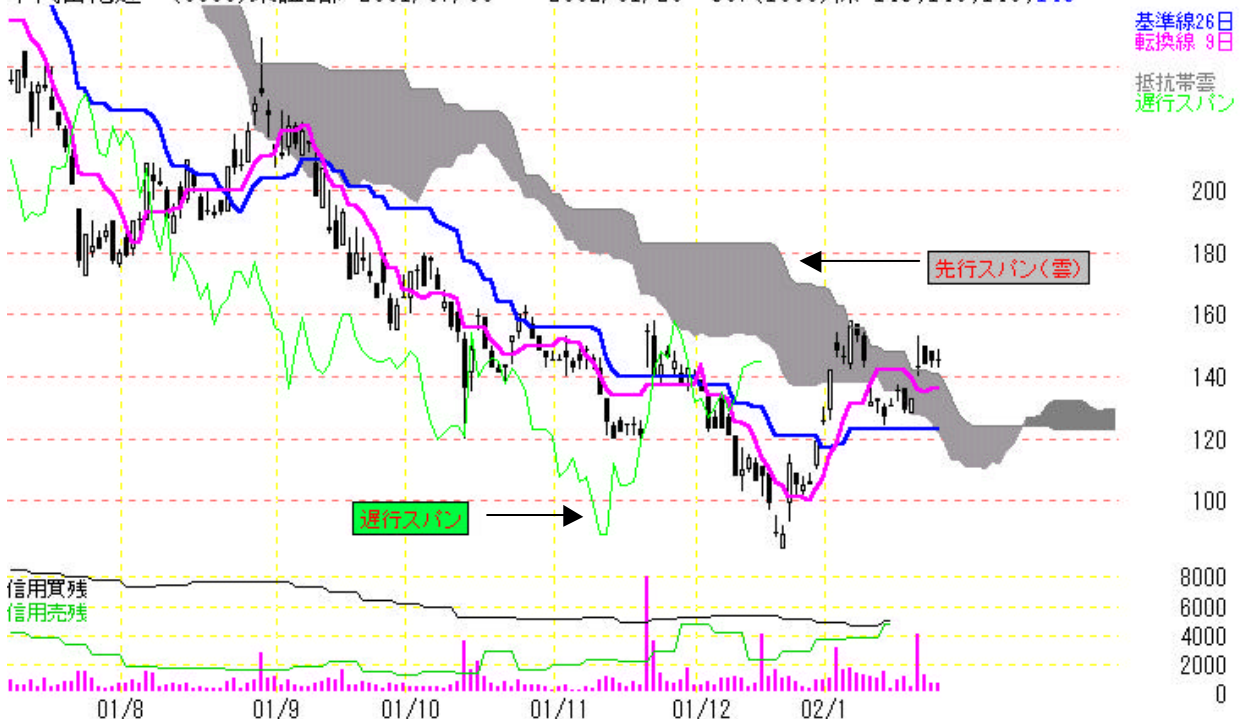
平成 14 年 1 月 28 日号

ファンドマネージャー 出来岡 潔

多くの方が一目均衡表という言葉をお聞きになったことがあると思います。一目均衡表のチャートには、通常使用されているローソク足チャートに付け加え、先行スパン 1、先行スパン 2、転換線、基準線、遅行スパン、などが付け加えられて売買のタイミングを計る手法で故一目山人氏が開発したテクニカル手法です。最近では外国人投資家も一目均衡表の理論を運用に役立てていると聞かれます。そして、中でも一番有名になったのが雲です、正しくは先行スパンと言います。いくらのところに雲があるから、ここが抵抗帯だといった使われ方をします。ただ、ここで問題なのは一目均衡表の理論という、この雲のことだけを指していると思われる方が少なくないのです。

しかし実際はそうではありません。先行スパン(雲)というのは一目均衡表の理論のほんの一部にしか過ぎないのです。いや、むしろ雲というのは一目均衡表の中では比較的軽視していいものだとさえ言われています。もっともっと大切な理論がたくさんあるわけですから。それについて、これから少しずつお話していきますが最初の今日は、雲はさほど重視しなければならないものではない。しかし、それでも雲を使うというなら、こんなことも知っておいてください。「下図は 6366 千代田化工建設 (1/28 145 円) のチャートです」現在の株価は雲を上を抜いています。それなら抵抗帯を抜いたのだから買いシグナルということになるのですが、実際にはそうとばかりは言えないのです。現在の株価から立会い日数で 26 日前に遅行スパン(遅行スパンの意味は後日詳しくご説明します)が入っています。その上を御覧ください。分厚い雲があります。実はここも上値を抑える抵抗帯なのです。ですから現在の株価が雲を上を抜いたとしても遅行スパンの上にある雲が抵抗帯として上値を阻むことが、多いとご理解ください。(次回に続く)

千代田化建 (6366)東証1部 2001/07/06 ~ 2002/01/29 597(1000)株 145,149,143,145



Alpha Chart 社製

このレポートは投資の判断となる情報の提供を目的としたものです。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようにお願い致します。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません